



山口大学 山口学研究センター紀要

# 山口学研究

第1巻



Bulletin of Yamaguchi Science Research Center

2020

## 紀要の発刊にあたって ごあいさつ

吉田キャンパス敷地内から、漢字に万葉仮名で読みを記した「音義木簡」が平成 27 年に出土しました。「音義木簡」は、国の統治機関があったと推測される 4 か所でのみ見つかっており、古代史上重要な発見とされます。このように、文明の進んだ現代においても、山口県ではこのような新たな発見が日々あり、また新しい謎が生まれています。

室町時代、大内文化が隆盛を極めた頃、キリスト教の伝道のため遠く南蛮からこの地を踏んだ宣教師フランシスコ・ザビエルの見た山口は、どのような世界だったのでしょうか？明治維新前夜萩の町、松下村塾で学び、志を持って渡英した 5 人の若者たちの原動力はどのようなものだったのでしょうか？それぞれの場面において山口の人々がどう考え、どう行動したかということについて考えさせられます。

秋吉台に代表される自然豊かな山口県では日常的に見ることができる景観や自然現象について、その成り立ちや学問的価値を私たちはどこまで理解しているのでしょうか？私たちが山口の自然・文化・歴史等やそこに住む過去から現在までの人々の生業に関して明らかとすることにより、どのような未来が見えてくるのでしょうか？このような観点から、山口県の持つ魅力を科学し、山口の現在・過去を知り、地域の将来を考え、地域に伝えていくことが求められています。

山口学研究センターは、科学的普遍性を追求し、地域の特色に関する再発見を目指し、自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育など分野を問わず文理融合の視点を重視した山口をフィールドにした調査研究を行っています。学問としての高いレベルを維持した研究成果は、本紀要をはじめ、「山口と世界」等の大学教育や公開講座などに反映し、その内容を一般市民に分かりやすく発信することにより地域社会へ積極的に貢献して参ります。

山口学研究センター紀要「山口学研究」はこれらの研究成果を広く国内外に発信する目的で発刊するものです。本紀要が山口の様々な分野において活用され、地方創生に貢献することを祈念いたします。

山口大学山口学研究センター長  
田中 和広



## 山口学研究センターについて

平成 27 年 12 月 9 日、山口大学創基 200 周年事業のひとつとして、「山口学研究センター」を設置しました。同センターは、山口県をフィールドとした自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。

この目的に沿った研究プロジェクトを公募・選定し、選定した個々のプロジェクトに対する支援（経費、広報、学外との調整など）を行うとともに、迅速な情報発信によって研究成果を地方自治体や地域社会に還元することで、地方創生や地域活性化の取組に繋げていきます。

---

# 紀要「山口学研究」 【第1号】

## 目次

---

- I 巻頭言 紀要の発刊にあたって  
山口学研究センター長 田中 和広
- II 山口学研究センターについて
- III 研究報告 (2016 年度採択プロジェクト)
- 「文化財修復に用いられる特殊な膠の作用機序に関する一考察」  
研究プロジェクト名：山口から始める文化財修復と日本画の新潮流  
研究代表者 大学院創成科学研究科 (工) 堤 宏守 . . . . . 1
- 「歴史的思考と地理的思考の融合を目指した地域学習ワークショップの実践」  
研究プロジェクト名：グローバルな視点で考える山口県の歴史・文化・自然  
研究代表者 教育学部 楮原 京子 . . . . . 5
- IV 研究報告 (寄稿分)
- 「学生企画ツアーによるインバウンド観光発展の可能性」  
経済学部 朝水 宗彦 . . . . . 12
- 「山口県における観光需要の季節変動性とその要因について」  
教育学部 森 明也 . . . . . 20
- V 投稿規程 . . . . . 32
- VI 編集後記

## 山口学研究センター紀要「山口学研究」投稿規程

(目的等)

第1条 山口大学における山口県の自然文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究成果を活用し、もって地域社会の活性化に寄与することを目的として、山口学研究センター（以下「センター」という）紀要「山口学研究」（以下「紀要」という。）を発行する。

2 紀要の編集及び発行は、本規程の定めるところによる。

(投稿資格)

第2条 投稿者（筆頭著者あるいは主たる執筆者）は、次のとおりとする。

- (1) 本学の常勤及び非常勤の教職員（退職者を含む）
- (2) (1)に定める者を代表者とする山口学研究プロジェクトの共同研究者
- (3) その他、紀要編集委員会（以下「委員会」という。）が認めた者

2 投稿者は共著者として実質的な共同研究者（学生を含む）を加えることができる。

(原稿の種類)

第3条 紀要に投稿できる原稿の種類は、「山口学」に関する内容とする。「山口学」とは、山口大学が推進する、山口県に関わる文理融合の研究である。

(原稿の体裁)

第4条 原稿は原則和文とする。原稿はA4判（上下左右に各20mmの余白）にMS明朝10ポイントで横2段組（23字×50行×2段）とし、原則として、図・表・写真を含み14ページ以内とする。原稿は電子媒体で、使用するファイル形式はwordファイルとする。

(原稿の形式)

第5条 下記の(1)～(6)の形式とする

(1) 表題等について

表題及び執筆者氏名はMS明朝16ポイントの太字とし、所属をMS明朝14ポイントとする。一方、英語表記では、表題及び執筆者氏名をTimes New Roman16ポイントとし、所属をTimes New Roman14ポイントとする。

(2) 要旨

要旨は400字以内で、背景・目的・方法・結果・結論等を簡潔に記載する。

(3) 本文

和文の句読点は全角「、」「。」を用いる。

章立ては1 2 3 …（全角太字）と太字で表記する。節は1.1. 1.2. …（半角太字）のように太字で表記する。

(4) 図・表・写真

図・表・写真は本文中にモノクロで挿入し、キャプションも含め版面に収まるよう作成を行い、記載の順序に番号を付ける。線画をスキャニングする際にはモードはモノクロ 2 階調、解像度は仕上がり時の寸法で 1,200dpi 以上に設定する。また、写真をスキャニングする際には、モードはグレースケール、解像度は仕上がり時の寸法で 350dpi 以上に設定する。

図・表・写真の番号及びキャプション(タイトルや説明)の位置は、図・写真の場合は図・写真の下側、表の場合は表の上側とする。

#### (5) 注釈

注は、1)、2) のように通し番号による上付き数字で示し、本文の後(引用・参考文献の前に)【注】の項目を建て一括して記す。

例：．．．である<sup>1)</sup>。

#### 【注】

1) 注は本文の後に一括して示す。

#### (6) 本文中における文献の引用方法

引用・参考文献については注釈の後、論文の末尾に【引用・参考文献】の項目を建て、日本語文献と英語文献を分けて日本語の場合は著者名五十音順、英語の場合は abc 順で一覧にする。

本文の該当箇所に、著者 1 名の場合(著者姓○○, 刊行年) 例：(田中, 2015)、著者 2 名の場合(著者姓○○・著者姓○○, 刊行年) 例：(田中・中村, 2015)、著者 3 名の場合(著者姓○○ほか, 刊行年) 例：(田中ほか, 2015) と表記する。

#### (7) 引用・参考文献一覧の作成様式 (日本語の場合)

=著者姓名=, XXXX (刊行年), 「=論文名=」, 『=書名=』, 発行者, pp. XX-XX (開始頁と終了頁)。(巻号頁は vol. no. pp. で統一)

論文名は「」でくくり、雑誌名を『』でくくる。書籍の場合は、引用内容を「」でくくり、書籍名を『』でくくる。

<例> 山下浩一, 1998, 「○○に伴う裂傷の頻度・部位・予防法」, 『日本○○学会誌』, ○○書店, pp. 97-600.

[URL のみを表示する場合]

上記と同様に引用先の名称と年号に続いて引用箇所のタイトルと URL を付す。

<例> 防災財団, 2018a, 『地域防災指針』 <https://www.bosai.co.jp/content/1266645>

#### (8) 引用・参考文献一覧の作成様式 (英語の場合)

Last Name に続いて、Middle Name と First Name を頭文字とピリオドで表示、各著者の間はカンマでつなぎ、最終著者との間は and でつなぐ。年号に続いて、文献名を“ ” で囲い、雑誌名はイタリックで表示する。巻号は、vol. 及び no. で表示

し、頁は pp. の後に最初と最後のページ数をハイフンでつなぐ。doi が分かる場合は、doi の URL を添える。

〈例〉Hill, V. A., Barber, E., Carter, N., and Volt, E., 2019, “Turbidity Current caused by Tsunami, 2011”, *Natural Science*, vol. 7, no. 42, pp.23-52, <https://doi.org/10.1166/s40939-018-0353-8>

[書籍全体を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に書籍名を“ ” で囲んで表示し、カンマのあとに出版社を表示し、頁数の後に p. を付す。

〈例〉Raymond, B., 2003, “Future of Robot”, Mechanic Publishing Co. Ltd., 366 p.

[書籍の一部を引用する場合]

著者名と年号（表記方は上述に準じる）の後に、引用部の名称を“ ” で囲い、*In:*（イタリック）の後に編集者名を書き、(ed.)あるいは(eds.)と書いたのち、イタリックで書籍名を表示し、カンマのあとに、引用頁数(pp. - )と出版社を示す。

〈例〉Abbot, V. A., Charleston, E., Porter, N., and Vail, E., 2015, “Ancient Music before J. S. Bach” *In:* Thompson, A.B. and Carry, O.N. (eds.) *Music Science*, American Publishing Co. Ltd. pp.3-66.

[URL のみを表示する場合]

著者ないし引用元の名称の後に閲覧した年号を付し、続いて URL を表示する。

〈例〉 World Heritage Organization, 2019, “Preservation Protocol of Karst Heritage”  
<http://www.worldheritage.com/663546.3.pdf>

(原稿の投稿)

第6条 紀要に投稿しようとする者は、委員会が定める期日までに、センター事務局に対し、委員会が指定する内容に従って原稿を提出しなければならない。

(審査)

第7条 投稿された論文の審査は、委員会が行う。

(論文掲載の可否)

第8条 投稿論文の掲載可否は委員会が決定する。原稿の体裁・内容などについて、委員会により指名された査読委員による査読を経て著者に修正を求めることがある。査読委員による査読は2回までとする。

(校正)

第9条 投稿者が自らの責任で校正を行う。

2 校正は、原則として編集に関わる修正（誤脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など）のみを対象とし、大幅な修正・加筆は認めない。

(著作権等)

第10条 投稿された論文等の著作権は、センターに帰属するものとする。

2 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルを掲載し

たりする場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理するものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。

3 投稿者は、センターに対して、当該論文等の印刷、電子的記録媒体 (CD-ROM、DVD-ROM 等) への変換・複製、学内外への配布及び公開を原則として許諾するものとする。

第 11 条 この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附 則

1 この規程は、令和元年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (令和 3 年 2 月 1 日変更)

1 この改正は、令和 3 年 2 月 1 日から施行する。



○その他紀要に関する事項

1. 原稿締切日について

原稿締切日はセンターにより採択されたプロジェクトに係るものについては支援終了の翌年度末まで、その他のものについては、投稿前に下記連絡表により投稿者が示すものとする。

2. 原稿の様式について

原稿様式（和文）を投稿者に対して電子データで提供する。

3. 図・表・写真について

紀要は、センターホームページで公開する予定もあるため、モノクロ版とカラー版両方の原稿を作成する。

4. 査読について

投稿者は査読を行う者2名を委員会に対して推薦する（下記表に2名記載してください）。

5. 謝辞について

センターにより採択されたプロジェクトに係るものについては、山口学研究センターのサポートがあったという内容を記載し、それ以外は必要に応じて自由記載とする。

---

以下の内容について、総務企画部地域連携課地域戦略係 ([sh034@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:sh034@yamaguchi-u.ac.jp)) まで連絡願います。

投稿者氏名	
投稿者所属	
内 容	簡潔に記載願います。
原稿提出予定日	令和 年 月 日
査読者 1	所属・氏名等
査読者 2	所属・氏名等

## 編集後記

本誌は、山口県に関係する様々な分野の研究を網羅し、文系・理系の分野融合を目指した新しい研究分野を扱っています。文系・理系によって論文の様式や慣習が異なり、試行錯誤の中での編集作業となりましたが、ようやく創刊号の発行にこぎつけました。創刊号の発行にあたり、本誌の趣旨にご賛同いただき、優れた原稿をお寄せいただきましたことに感謝いたします。併せて、ご多忙な中で査読・審査にご協力いただきました先生方にも、心より御礼申し上げます。本誌では、学術研究論文を始め、学術的価値のある報告や資料、エッセイなど、多様な形の学術成果を掲載することになっております。また、様々な社会貢献に関する報告の投稿も募集しております。山口県に関する様々な分野の研究や報告につきまして、皆様の活発なご投稿をお待ち申し上げます。

令和3年3月16日

山口学研究センター紀要編集委員長

脇田 浩二

### 編集委員

上原 一明

重松 宏武

田本 正一

西尾 建

都築 徳浩

中村 紀幸

中村 宮子

---

山口大学山口学研究センター紀要「山口学研究」 第1巻

発行日 令和3年3月16日

発行 山口大学山口学研究センター

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

TEL 083-933-5630

編集 山口大学山口学研究センター紀要編集委員会

印刷 株式会社 マルニ

---

ISBN 978-4-909021-04-5